

前方後方墳の再登場

…弥生色から脱却した中期古墳…

「古墳」と言っても一般にイメージされる、大きな墳丘にたくさんの方輪が並ぶものは、島根県では全国的な傾向からはやや遅れた、古墳時代中期にあたる五世紀以降に目立ち始めます。小さな古墳が集中して造られるものから、前期のように方墳だけでなく、円墳や

前方後方墳も多数造られ始めます。そして同時に、弥生時代から続いていた、墓の上から土器が出土するということもなくなり、古墳の上で行われる祭祀に大きな変化があったと考えられます。また、すでに全国では古墳時代前期のうちに造られなくなっていた前方後方墳が、なぜ中期の終りころになって松江市を中心とする地域で再び造られ始めるのかも、注目されることですね。



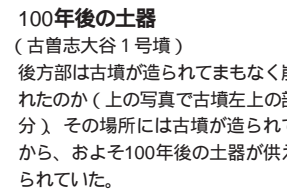
古曾志大谷1号墳 (松江市古曾志町)
全長45.7m、2段築成の前方後方墳。この墳形は古墳時代中期には、全国的にほとんど姿を消してしまうが、なぜか出雲東部では後期まで造られている。現在実大の復元模型が、古墳の丘古曾志公園で公開されている。



埴輪 (古曾志大谷1号墳)
もとの位置に立った状態で出土した。総数約400本あったと推定される。



葺石 (古曾志大谷1号墳)
墳丘は多くの石でおおわれていたが、よく見ると場所によって石の積み方が異なる。何人もの人によって同時に造られたためだろうか。



100年後の土器
(古曾志大谷1号墳)
後方は古墳が造られてまもなく崩れたのか(上の写真で古墳左上の部分) その場所には古墳が造られてから、およそ100年後の土器が供えられていた。



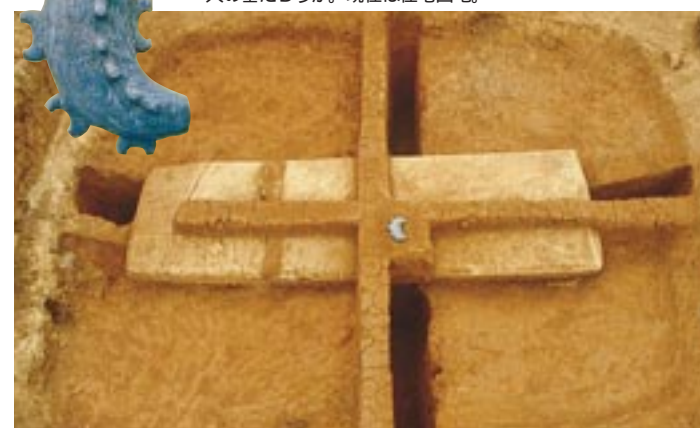
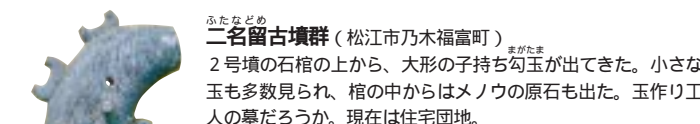
大刀
(古曾志大谷1号墳)
中心となる後方の埋葬施設は流失していたが、前方部の中央に石でおおわれた木棺の跡が残っていた。中から98cmの長大な大刀や鉄の矢じりなどが発見された。



山崎古墳 (松江市西川津町)
15mの方墳で、5世紀の古墳としては珍しく排水溝を持つ。剣、矢じりなど多量の鉄器が出土した。現在は住宅団地。



鳥場古墳群 (玉湯町玉造)
組合せ式の石棺が見つかった。蓋石には縄掛突起が付いていた。石は来待石と推定される。現在は住宅地。



新開2号墳
(海士町海士)
5世紀ごろの古墳で、周囲には溝があるが、1カ所だけ途切れて古墳に渡るための橋のようになっていた。現在は老人養護施設。



横田古墳
(宍道町西来待)
田んぼを整備中に舟形石棺のフタが発見され、調査したが墳丘は見つからなかった。舟形石棺は宍道湖、中海周辺に多く分布する。



結古墳群 (斐川町直江)
丘の上に数多くの古墳が発見された。現在は工場。



井ノ奥4号墳
(松江市矢田町)
発見時、すでに墳丘の3分の2が破壊されていたが、とてもきれいな形をした前方後方墳。この周辺には、ほかにも巨大な古墳が集中している。今は住宅団地。



鱒淵4号墳 (瑞穂町鱒淵)
石棺が3基もあったが、副葬品はなく、女性の骨だけが残っていた。